

内藤幸男と座間の未来を考える会 市政ドリル 第24号



責任感

郷土愛

情熱



1年間大変お世話になりました。平成31年も皆様の身近な存在として頑張ってお参ります。

問1

被保険者証とあるものを一体化するための補正予算が組まれました。被保険者証と一体化されるものはなんでしょう？

- ①高齢受給者証 ②運転免許証 ③個人番号カード

問2

座間市消防団条例の一部が改正されました。今回新たに追加された消防団員を任命する際の条件とは？

- ①女性 ②主婦 ③市内に勤務する者 ④定年退職者

平成30年
第4回定例会

財政規律を重んじる市長の姿勢を評価



消防団の成り手が全国的に減少しています。今回の条例改正により市内居住者だけでなく、勤務者も入団することができるようになりました。ぜひ一緒に活動しましょう！

引き続き堅実な財政運営が目立ちます。これは財政調整基金という年度間調整の機能が有効に図られ、活用されている結果です。総計予算主義の原則に則って財政運営を行っているからこそであり、必要な経費を当初予算で計上し、さらに浮き沈み分は補正で計上するといったように事業実施に必要な収入と支出の総額、お金の流れを明確化することで、予算の透明性を確保すると共に、予算執行については議会に諮り議決を経て行っていくという市長の財政規律を重んじる姿勢を感じることができました。

また、個別の事業では、被保険者証と高齢受給者証を一体化するための予算措置や収納支援システムの更新に伴うQRコードリーダー購入のための予算措置がされました。

さらに、座間市消防団条例の一部を改正する案が出され、これまで団員を任命する際、市内居住が条件でしたが、新たに市内に勤務する者が追加されました。地域の防災力となる消防団は全国的に成り手が減少傾向であり、本市に於いても定員を割っている状況です。今回の条例改正により加入促進が図られることを期待しています。

確かな一歩の積み重ねで座間市の未来へつなぐ。

答え 問1 ①、問2 ③



内藤幸男と座間の未来を考える会

☎090-6107-3467

〒252-0024 座間市入谷4-2891-42

✉ zama@naito-yukio.com

HP



内藤幸男

検索

討議資料

会派（自民党・いさま）視察

富山県富山市・石川県かほく市・七尾市・小松市

富山市 産後ケア応接室及び病児・病後児保育事業

富山市は平成29年3月に、「富山市まちなか総合ケアセンター」を開設しています。

この富山市まちなか総合ケアセンターは、病児保育室やまちなか診療所、産後ケア応援室、こども発達支援室などが設けられ、子育て支援、在宅医療、地域コミュニティの醸成等を推進するための事業が展開されていました。

病児保育室では、通常の病児・病後児保育＋お迎え型の病児保育事業が展開され(右図参考)、保育所などで急に子どもの体調が悪くなった際に、保護者がすぐに迎えに行けない場合、保護者に代わって市の看護師と保育士が保育所等に迎えに行き、かかりつけ医などを受診した後にセンター内の病児保育室で子どもを預かるといったとても手厚い支援を行っていました。

本市では、「ネウボラざまりん」が今年8月に開所し、子育てファミリーの相談場所が整備されました。この機能をさらに充実させる為のサポート支援や病児・病後児保育の整備を富山市の事例を参考にしながら考えていきたいと思ひます。私自身、病児・病後児保育の必要性を強く感じています。

病児保育事業



お迎え型病児保育事業



富山市まちなか総合ケアセンター。施設内にある産後ケア応援室はホテルのような綺麗な部屋が設けられ、宿泊が可能ということで利用者からは好評ということでした。

かほく市 議会運営(議会改革)



早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査で石川県内で上位にランクインするかほく市で「議会運営(議会改革)」について話を伺いました。

今回の視察にあたって私自身が特に気になったのが、平成30年4月に施工された「かほく市議会基本条例」と「議会による行政評価」についてです。

議会基本条例は、開かれた議会を目指し近年導入している自治体が増えているものの、内容が類似したものも多く、私自身は本当に必要なものなのか正直疑問でありましたので、今回実際に導入している自治体の話を聞いたのは大きな収穫でした。

実際に話を聞いたところ「善し悪しがある。議会改革度調査でのポイントは上がるけど、自分たちを追い込んでしまうこともある」とのことであり、私自身は本市では議会基本条例を制定する前に具体的な施策を積み重ねる等、もっとやらなければいけないことがあるなと感じました。

また、議会による行政評価に関しては、事業別に(1)項目別評価、(2)全体評価、(3)全体評価コメント、(4)今後の方向性など丁寧に記され、事業の必要性や妥当性が示されていて、予算編成に反映させるよう行政に要請する方法として大変参考になりました。

七尾市 人口減少対策(移住定住)

七尾市では、空き家バンク、住まい支援、仕事支援、創業応援さらにはローカルベンチャー推進事業や移住コンシェルジュ事業など人口減少対策(移住定住事業)を積極的に行っています。

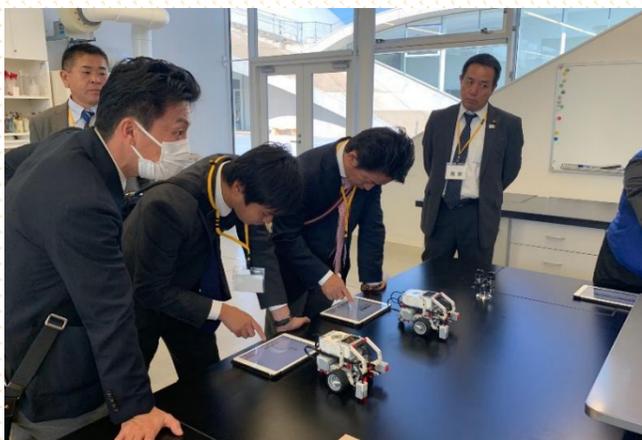
本市でも人口減少は七尾市同様に今後の課題の一つです。ただ移住よりどちらかと言えば定住対策が求められます。住民同士のつながり、安心して子育てできる環境、子どもがすくすく育つ教育環境、雇用環境、災害に強いまちづくり、障がい者が安心できる環境づくりなど、一体となっていくことが大事であります。座間市に生まれてよかった、住んでよかったといってもらえるような、取り組みができるよう私自身も提言をしていきたいと思ひます。

情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ■七尾暮らし応援サイト 七尾市で暮らすために必要な情報をまとめた移住定住専用ポータルサイトを開設。
住宅助成制度	<ul style="list-style-type: none"> ■移住定住促進補助金(住宅取得) ■七尾市定住促進住宅取得奨励金 ■七尾市まちなか居住再生事業 ■移住定住促進補助金(住宅家賃) ■七尾市賃貸住宅家賃助成金 ■空き家バンク
起業・創業支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ななお創業応援カルテット 七尾市、七尾商工会議所、共栄信用金庫、日本政策金融公庫の4者が連携し、創業支援などの情報を共有し、創業前から創業後までを一貫して支援。 ■スタートアップ補助金
さらなる推進対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ローカルベンチャー推進事業 コーディネータを設置し、求人と求職のマッチングを図り、地域に新たな経済を生み出す。 ■移住コンシェルジュ事業 移住相談会の実施や移住体験プログラムを開発。

小松市 ひとつものづくり(サイエンスヒルズこまつ)



3Dスタジオや科学体験展示ホール、技術工作室などが設置されているサイエンスヒルズこまつ



レゴで組み立てた車にタブレットを使ってプログラムを入力。大人も夢中になります。

サイエンスヒルズこまつは小松製作所小松工場の跡地につくられた施設で、「ひとつものづくり科学館」と「こまつビジネス創造プラザ」の2つの機能を持っています。

3年前からは教育委員会所管の施設となり、子ども達に科学を好きになってもらう取り組み、そして未来の技術者を育てるための工夫がされてきました。

これから小学校ではプログラミングが導入されますが、今回私たちも、レゴで組み立てた車にプログラムを入力して動かすといったことも体験させていただきました。

私も平成29年第1回定例会でプログラミング教育について、ICT環境の整備状況や必修化に向けた指導者の準備など一般質問をさせて頂いていますが、ロボット産業特区に指定されている本市としては、ものづくりやプログラミングなど、この分野にもっと関心を持つことが必要だと感じています。

ちなみに本市では小中学校の先生がプログラミングになれるため、今年度「小学校で必修化されるプログラミング。まずは先生が楽しんでみましょう」と題した研修講座やタブレットの活用講座などが実施され、プログラミング必修化に向けた準備がしっかりと進められています。

第四回定例会一般質問と答弁の主な内容



内藤幸男 議員

12月4日の一般質問では、「カラーバリアフリーの取り組み」、「健康づくりの推進策」について質問をさせていただきました。以下主な質問と答弁の内容になります。

◆色覚多様性の方に対する考え方

本市としての色覚多様性の方に対する考え方・色覚多様性の方への配慮、さらにカラーバリアフリーをどのように捉えているのかお聞かせください。

【市長】 全国で300万人もいる色覚多様性の方は身近に必ずいますし、色彩に於いて様々なことを表現することが多い現代社会では、ご不便を感じる人が多いと思います。こうした方が安心して社会参画をするためには合理的配慮が当然必要だと認識しています。カラーバリアフリーの取り組みは重要だと考えています。今回ご指摘いただいたのを契機として、職員間の情報共有システムに県のマニュアルを提示するなど、職員の周知を図ると共に今後も継続的に意識啓発をはかりたいと思います。

◆色覚チョークに対する見解

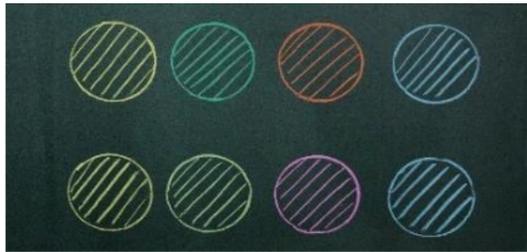
教育委員会では色覚多様者へ配慮できる色覚チョークについてどのように考えているのか見解を聞かせてください。

【教育長】 色覚チョークは性質や効果、価格の良さから教育委員会としても認識しております。教育のユニバーサルデザインの推進を図る中で、学校が必要と判断して色覚チョークを購入する場合に教育委員会として支援したいと考えています。また、私の方から改めて校長会等を通して学校に周知したいと思っています。

【色覚型別のチョークの見え方】

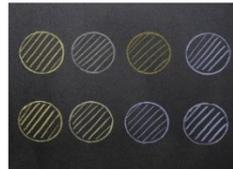
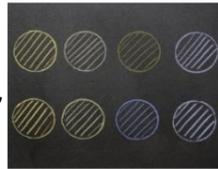
上の段が色覚チョークで書いた円、下が従来のダストレスチョークで書いた円です。

C型(一般)の色覚者は、色覚チョークで書いた円の方が従来のチョークと比べ赤が鮮やかで明るく、緑が濃くはっきりと見えます。



C型:一般の色覚

また、P・D型の色覚者の場合は、従来のチョークではほぼ2色しか識別出来ませんが、色覚チョークは4色に識別可能です。



◆坂道を活用した健康づくりについて

平成29年第二回定例会で緩やかな坂道を歩くことで糖尿病になるリスクが軽減できるというデータを用いて、本市の坂道を活用した健康対策、さらには坂道を利用したガイドマップづくりについて提言させていただきました。その後どのような調査や研究が行われ、現在どういった状況になっているのかお聞かせください。

【健康部長】 本市の坂道を活用した健康施策は研究しているところです。その中で今年度、神奈川県健康アプリ「マイME-BYOカルテ」を活用したウォーキングキャンペーンの参加募集があったため、市民団体の協力のもと、座間の文化財巡り栗原縦貫道コースと相模が丘レインボーコースの2コースのウォーキングコースを登録しました。また、合わせて人気ゲーム「ポケモンGO」とコラボしてマップについても県で作成して頂き、健康づくり課にて配布をしています。引き続き坂道を活用した健康づくり施策の研究を模索していきます。



ポケモンGOとコラボしたウォーキングマップ(栗原縦貫道コース)

◆WAONカードを活用した健康づくりについて

会派視察でお伺いしたかほく市では、健康レッスン、ウォーキングイベント、がん検診、献血など健康づくりに関するイベントに参加し、イオンリテール株式会社が発行する「かほくにゃおんWAONカード」を提示すると1事業につき50健康ポイント(電子マネー50WAON相当)が付与されるという事業を実施していました。本市にもイオンモール座間があり、ポイントを活用した健康づくりが出来ないでしょうか。

【健康部長】 かほく市の健康ポイント付与についてはICTを活用し、民間企業と連携した魅力あるインセンティブ策だと考えます。本市は平成30年2月にイオン(株)と包括連携協定を締結し、健康増進に関する事について連携して取り組む事項を入れていることから、このイオンポイントの活用については一つの方策として参考にさせていただきます。

後援会へのご加入も随時募集しております。お電話090・6107・3467もしくはメール zama@naito-yukio.comにてご連絡ください。またご要望なども気軽にご相談ください。